



## 浅茅原 つばらつばらに 物思(ものも)へば 古りにし里し 思ほゆるかも

7月万葉集 巻3-333 大伴旅人  
心ゆくまま物思いに耽っていると、昔住んでいた明日香、あの浅茅が一面に広がっていた我が故郷が懐かしく思われることよ

### 七夕の日に願いを込めて！

7月に入っても結構、雨が降り続いていました。学校園では、1学期の締めくくりの時期を迎え、期末懇談等が行われています。

7月7日(火)は七夕でした。子どもの頃、短冊に願いごとを書いて、色とりどりの飾りと一緒に、笹(竹)につるしたことを思い出します。6年前の令和2年7月号にも七夕について書きました。このときは、新型コロナウイルス感染症が蔓延した時期で、私の願いにコロナの早期収束を切に願う想いを書いたように思います。

七夕とは、天の川を境に離ればなれになった彦星(牽牛星=わし座のアルタイル)と織姫(織女星=こと座のベガ)が、年に一回7月7日の夜にだけ川を渡って会うことができる伝説にちなんだ年中行事です。伝説の中の織姫は、機織りの名人で、このことにあやかって古代中国では、女性たちが裁縫の上達を願う「乞巧奠(きっこうでん)」という行事が行われ、それがやがて日本に伝わり、宮中では、奈良時代から行われていたようです。江戸時代になると七夕の行事は人々の間にも広まり、寺子屋で学ぶ子どもたちは、習字の上達を願って短冊にその思いを書いたようです。

七夕の日に願いごとをする風習は、本来、裁縫や書道などの技芸の上達を願うものですが、現在は「どんな願いごとでも叶えてもらえる日」になっているように思います。しかし、願いごとが叶うには、それ相応の努力が必要ではないかと思えます。

この願いごとは、夢や希望に置き換えられると思えますし、幼い頃には魔法のように叶うといいなと思っていた夢や希望が、大きくなっていくに従って、いつか自然に叶えられることをただ待つだけでは決して叶わないことは当然ながら分かっていることです。七夕の短冊に願いごとをしたための行いは、夏の夜空の星に奇跡を願うことではなく、夢や希望を自らの努力で現実へと引き寄せるために、「どのような人間になりたいのか。」という目標や「どのような将来を思い描き、努力するのか。」を自分自身に問いかける儀式のようなものかもしれません。この七夕の日を契機として、自分自身の心の持ち方に改めて向き合うと同時に、今の自分にとって最も大切な願いごととは何かをじっくり考えてみてはどうでしょうか。

未来への夢や希望に込めた前向きな願いごと祈りは、私たちにとって、心豊かな人生の道しるべとなるのではないのでしょうか。



### 「夏休みで様々な体験活動を！」

今年の夏休みは、7月18日(土)からとなり、8月31日(月)まで、45日間の最も長い期間となります。これまでも、このたよりの中で、夏休みを迎えるにあたって体験活動の重要性を書いてきましたが、再度、採り上げてみたいと思います。

体験活動とは、文字どおり、自分の身体を通して実地に経験する活動のことで、子どもたちが身体全体で対象に働きかけ、かかわっていく活動のことで、この中には、対象となる実物に実際に関わっていく「直接体験」のほか、インターネットやテレビ等を介して感覚的に学びとっていく「間接体験」、シミュレーションや模型等を通じて模擬的に学ぶ「擬似体験」があります。しかし、「間接体験」や「擬似体験」の機会が圧倒的に多くなった現在は、子どもたちの成長にとって負の影響を及ぼしていることが懸念されています。これからの教育において、重視されなければならないのは、ヒト・モノや実社会に実際に触れ、かかわり合う「直接体験」がとても重要です。



体験活動は、豊かな人間性、自ら学び、自ら考える力などの生きる力の基盤、子どもの成長の糧としての役割が期待されています。要するに、思考や実践の出発点あるいは基盤として、または、思考や知識を働かせ、実践して、よりよい生活を創り出していくためには体験が必要不可欠であるとされています。



具体的には、次のような点において効果があると考えられています。

- 1 現実の世界や生活などへの興味・関心、意欲の向上
- 2 問題発見や問題解決能力の育成
- 3 思考や理解の基盤づくり
- 4 教科等の「知」の総合化と実践化
- 5 自己との出会いと成就感や自尊感情の獲得
- 6 社会性や共に生きる力の育成
- 7 豊かな人間性や価値観の形成
- 8 基礎的な体力や心身の健康の保持増進



体験活動の中で、特に自然体験活動は、これまでの調査結果から、自然体験が多い子どもには道徳観や正義感が強い子どもが多い、あるいは、自然に触れる体験をしたあとは、勉強に対してやる気が出る子どもが多くなるなどの報告があります。その関係で自然体験が学習に与える影響について、掘り下げてみます。

自然体験は、単なる遊びではなく、学習意欲・問題解決力・社会性・情意面など多方面で学習に寄与しています。

#### 1 学習意欲と課題解決能力の向上

調査によると、自然体験を多く行う子どもたちは「わからないことは調べる」「協力して活動できる」「相手の立場を考える」など、学習や課題解決に積極的な傾向が顕著です。特に、野外での活動は、現実的な問題発見・解決能力を育み、教科学習の動機づけにもつながります。

## 2 情意面・人間性の豊かさ

長期自然体験(8泊9日など)では、参加者の「いのちの大切さ」「自然への感性」「達成意欲」が有意に向上し、自然と直接関わることで、生命尊重や思いやり、達成動機といった情意が育ち、道徳的・社会的な学習基盤が強化されます。

## 3 社会性・協調性の育成

自然体験は異年齢集団やグループ活動を通じて、他者との関わりや協力する力を育みます。このことから、集団生活や社会参加に必要な協調性・規範意識が身に付きます。



## 4 知的能力・教科学習との関連

自然体験経験者は理科・図画工作・体育など得意教科の数が多傾向にあり、自然観察や野外活動は、科学的探究心や総合的な学習力を高める効果があります。

## 5 心身の健康と学習環境

体力の向上やストレス軽減効果により、学習に集中できる心身の基盤が整います。また、自然との関わりは「自然欠乏症候群」防止にも寄与し、学習意欲の持続性を高めます。



以上のことから、自然体験は、学習意欲・問題解決力・情意・社会性・心身健康を総合的に高める学習資源となります。学校教育や家庭、地域での自然体験機会を増やすことは、学習の質的向上と人間性の育成に大きく寄与すると思います。

## 学校・園から



### 一小1年生と一幼5歳児との交流会！

6月号にも、架け橋推進委員会の取組の一例として、真美ヶ丘第一小学校附属幼稚園の5歳児つき組と真美ヶ丘第一小学校1年生との交流会での給食の様子を載せました。今回は、7月1日(水)と3日(金)に、1年生が幼稚園を訪れ、つき組の子どもたちと「スライム研究所」「しゃぼん玉研究所」「あわ研究所」の3つのブースに分かれて、楽しく交流体験をしました。

「スライム研究所」ではよく伸びるスライムを、「しゃぼん玉研究所」では大きいしゃぼん玉を、「あわ研究所」では、もこもこのあわを作ろうというのがそれぞれのミッションだったので、子どもたちは目を輝かせて一生懸命取り組んでいました。

「この粉を入れたら、こんなにのびたよ。」「下から上にゆっくりあげたら大きなしゃぼん玉ができたよ。」「高速まぜまぜをしたら、もこもこのあわができたよ」と嬉しそうに伝えてくれました。

前回の交流では1年生がリードする場面が多かったのです



が、今回はホームグラウンドの園での交流であったためか、「こっちこっち。」と言いながら、1年生の手を引っ張っていく園児の姿が見られました。どこの研究所も、子どもたちのキラキラと輝く眼差しを感じながら、それぞれのミッションはかなえられ、大成功に終わることができました。

## 真美ヶ丘第一小学校

### 大仏プロジェクト 運動場に奈良の大仏が出現！

6年生の子どもたちが、社会科で学習した奈良の大仏を運動場に描いてみたいという要望を受けて、運動場に実物大の奈良の大仏を描きました。



設計図を基に一人ひとり区切られたピースを責任をもって担当し、58人全員で共同制作をし完成させました。

出来上がった大仏を3Fの教室から見て、「やっぱり大仏は大きいなあ」と実感していました。



## 広陵北小学校

### 防災避難訓練

北小学校では、年に数回の避難訓練をします。1学期は、不審者対応の避難訓練と地震を想定した避難・引き渡し訓練を実施しました。

不審者侵入も大地震もないことを祈りますが、もしものことを想定し、できるだけ本番さながらの避難訓練を実施しています。引き渡し訓練の様子  
6月6日(土)は午前中に授業参観、午後から保護者への引き渡し訓練を行いました。

7月9日(木)はナラ・シェイクアウトに合わせて、地震が起こった際の安全確保行動の訓練を行いました。

避難訓練は命を守るための行動です。右の写真は、サイレンに合わせて、机の下に避難した様子です。下の写真は、外で活動していた学級が、運動場の真ん中に避難した様子です。

災害や事件という極限の状況下でも落ち着いて行動できる力を身に付けたいといけません。児童・教職員ともに緊張感を持った訓練を繰り返し実施することで、いざという時に迷わず行動できることを目指したいと思います。

